

黒電話

長谷川 能三(物理担当・主任学芸員)

黒電話というのはその名のとおり黒い電話機のことです。3号、4号、600形、601形という型式の電話機が黒電話と呼ばれるものにあたります。昔はうちの家でも使っていた…という方も多いと思いますが、おそらくほとんどが600形、601形の電話機でしょう。

写真左上の3号電話機(3号自動式卓上電話機)は、1933年から採用された機種で、自動式というのは自分で相手の電話番号をダイヤルできるということです。当初の電話は、電話局の交換手に相手の番号を伝え、繋いでもらうという手動式でした。そのため、電話機には発電機が内蔵され、ハンドルを回してベルやランプで電話局の交換手を呼び出していたのです。

やがて、電話局から電気が供給されるようになったり、自動式の交換機が導入され、ハンドルがないダイヤル式の電話機が増えていきました。ただ、まだダイヤルの使い方を知らない人が多いためか、ダイヤルのまん中に使い方が書いてあります。赤で書かれた大事な部分が消えてしまっていますが、「受話器を外してから回転盤を右へ指止め迄廻してお放しなさい」と書いてありました(写真左下)。

ただ、全国の交換機が自動化されたのは1979年であり、4号電話機になった後も、まだ写真右上のようなハンドルのついた電話機が作られていました。



3号電話機
(3号自動式卓上電話機)



4号電話機
(4A デンワキ)



4号電話機
(41号M電話機)



3号電話機のダイヤル



600形電話機 (600-A₂)



601形電話機 (601-A₂)